



〈雑録〉チユニスニ於ケル佛蘭西ノ植民

高岡, 熊雄

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 14(1):75-93

(Issue Date)

1913-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051972>



雜 錄

チユニスニ於ケル

佛蘭西ノ植民

法學博士 高岡熊雄

本篇ハコンラツド教授編纂ノ經濟學統計學年報八月分ニ掲載セルルドルフ・レオンハードノ論文ニシテ獨リチユニスニ於ケル佛國植民ノ狀況ヲ知り得ルノミナラズ亦以テ我新領土統治ノ參考ニ供スルニ足ルモノアリ茲ニ其ノ大要ヲ譯載ス

チユニスハ北亞弗利加沿岸ノ中央ニ位シ面積ハ約十二萬乃至十三萬平方キロメートルニシテ人口ハ種々ノ人種ヨリ成リベルベル人アリアラビア人アリ土耳其人アリムーア人アリユダヤ人アリ歐羅巴人アリ其ノ數明瞭ナラズト雖モ約二百萬人ト稱ス其ノ内歐人ハ十三萬人ニシテ伊太利人ハ八萬人マルタ人ハ一萬人佛人ハ三萬四千

人ナリ斯クノ如ク人種ノ數多キ上ニ彼等ハ又互ニ相雜婚スルヲ以テ人種ノ混淆雜多ナルコト實ニ名狀ス可ラズ而シテ彼等ノ十中ノ九ハ雨量多ク土地豐饒ナル東部沿岸地方ニ住セリ。

チユニスノ氣候ハ地方ニ依リ差異甚シク隨テ其ノ植民モ亦種々異ナリタル情態ヲ呈セリ先ヅ北方山岳多キ地方ノ氣候ハ歐洲ノ地中海沿岸地方ト略相類似シ一箇年ノ雨量百五十サンチメートルニ及ベル所少ナシトセズ高山ニハ白雪ヲ戴ケルモノスラアレバ歐洲植民者ノ來テ活動シ得ルハ此ノ地方ニシテ穀作行ハレ飼牛モ亦相當ノ收益ヲ舉グ故ニ昔時ヨリシテ地味ノ豐饒ナルヲ以テ名アリ之ヨリ内部ニ進ムニ從ヒ雨量ハ漸次減少シ昔ハ土地肥沃ナリシ地方モ今ハ一ノ高原ト化シテ唯綿羊ノ飼育ニ適スルノミ更ニ南スルニ從ヒ雨量ハ益減ジ一箇年僅カニ十五サンチメートルニ過ギズシテスファクス及ガフサ以南ノ地一帯ハ純然タル沙漠トナリ唯處々ニ水源地ア

ルノミ東部沿岸地方ニテハ大凡幅二十乃至五十
キロメートルノ間ハ雨量稍多ク三十乃至四十サ
ンチメートルニ上リ加フルニ空氣中濕氣ヲ多ク
含ムヲ以テ土人ハ能ク之ヲ利用シ以テ橄欖樹ヲ
栽培ス此ノ地ニ產スル橄欖油ハ往時ヨリ世ニ著
ハル此ノ地方ハ北ヨリ南ニ進ムニ從ヒ漸次濕度
ヲ減少スルヲ以テ土人モ亦之ニ應ジ南方ニ進ム
ニ從ヒ次第ニ橄欖樹ノ樹間ヲ廣クシ以テ樹根ヲ
シテヨリ廣キ地中ヨリ養分ヲ吸收シ得ルノ法ヲ
講ゼリ沿岸地方一帯ニハ鮪鰯及海綿ヲ產ス又ガ
フサニハ磷礦アリ。

吾人ハ今茲ニチユニスニ於ケル佛國植民ノ現
況ヲ陳述スル前先ヅ之ト密接ナル關係ヲ有セル
從來此ノ地ニ行ハレシ土地制度ノ大要ヲ縷述セ
ン。

元來アラビヤ人ノ私的及公的生活ハ共ニ經典
コーランニ依リテ支配セラレ同種族ニ屬スルモ
ノハ何レモ皆社會上ニ於テハ平等ナリト雖政治

上ニ在テハ統治者ノ專制政治ニ服從スチユニス
ノベール^{Beur}モ同一ノ權利ヲ有シチユニス全土ヲ
支配ス然レドモアラビヤ人ノ統治モ他ノ國土ニ
於ケルト等シク地方的及歷史的影響ヲ被ムルコ
ト少ナカラザルハ言ヲ俟タザルナリ吾人ガチユ
ニスニ於テ第一ニ注目スルハ大地主ノ數ノ實ニ
多キコト是ナリ是レ昔時カルセージ時代ノ遺風
ニシテ其ノ後羅馬人アラビヤ人移リ來リシモ敢
テ此ノ風ヲ改メズ以テ佛國占有當時ニ及ベリ彼
等大地主ノ多クハ常ニ北方沿岸地方ニ在ル都會
ニ住シ所有地ハ唯監督者ニ一任シ或ハ之ヲ以テ
綿羊ノ放牧地トナセルアリ或ハ之ヲ小作セシム
ルアリ或ハ之ヲ約十町步ヅ、ノ小面積ニ區劃シ
ベルベルト稱スル土人ニ貸與シ農具種子及次ノ
收穫マデノ食料品ヲモ前貸シテ以テ之ヲ耕作セ
シムルアリ此ノ場合ニハ土人ハ僅ニ收穫物ノ五
分ノ一ヲ受クルノミニシテ一箇年百八十フラン
ノ收入アルニ過ギズ加フルニ彼等ハ二十五フラ

ンノ人頭税ヲ納メザル可カラザルヲ以テ其ノ境遇ヤ實ニ憫ムニ堪ヘタリ然レドモ此ノ地佛人ノ手ニ歸シテ以來未ダ之ニ對シテ何等ノ改良策ヲ講ズルナシ恐クハ農業ノ經營集約トナリ技倆アル勞働者ヲ要求スル時代ノ到達スルニアラズンバ遂ニ其ノ事ナキカ沿岸地方ニ於ケル橄欖樹ノ栽培モ稍是レト趣キヲ等クシ勞働者ハ樹木ノ手入等ヲナス爲メ總收益ノ一部ヲ受ク若シ新タニ果園ヲ開設センカ八箇年ノ後樹木結實スルニ至リ土地ノ半バヲ受クルヲ以テ一般ノ契約トス然レドモ實際ニ於テハ地主ハ高利貸的行爲ヲ以前貸ヲナスヲ以テ土人ハ負債ノ爲メ土地ノ分配ヲ受クルモノ殆ンド稀ナリト云フ。

尙チユニスノ土地制度上重要ナルモノヲ寺院地 *Ecclesiastical* 寺院地ニ二種アリ一ハ土地ノ收益全額ヲ以テ寺院ノ禮拜ニ使用スル純然タル寺院地ニシテ他ハ名義上ノ寺院地ナリ名義上ノ寺院地ノ起因ヲ稽ヌルニ元來寺院地ハ何人モ之ニ手

ヲ着クルコト能ハザルモノナレバ土地所有者ハ所有地ヲ先ヅ一旦寺院ニ寄附シ後チ更ニ寺院ヨリシテ之ヲ借り受ケ土地ヨリ生ズル收益ノ一部分ヲ寺院ニ提供スルトキハ寺院ハ其ノ土地全部ヲ保護スル責務ニ當ルヲ以テ假トヒベールノ權力ト雖如何トモ爲ス能ハズ又土地所有者ノ子孫或ハ親族ノモノモ己レノ欲スルガ如ク之ヲ他ニ賣買讓與シ能ハザルヲ以テ其ノ家族ハ永久ニ土地ノ收益ヲ受クルノ利アリ加之寺院ニ供スル額ハ永久不變ニシテ土地十町歩ニ對シ百フランヲ超過スルコト無キヲ以テ土地所有者ハ自衛上好ンデ土地ヲ寺院ニ寄附シ以テ名義上ノ寺院地トナセリ。

上來略陳セシ所ハチユニスノ天然ト住民及佛蘭西占有當時ニ於ケル土地ノ狀況ナリ斯ル狀況ノ下ニ於テ佛蘭西植民ハ如何ナル發展ヲナセシヤ之ヲ先ヅ隣邦アルゼリヤニ比スルニアルゼリヤノ住民ハ性剽悍ニシテ爭鬪ヲ好ミ佛國占領後

政府ハ之ヲ鎮壓スル爲メニ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ植民者モ外敵ヲ防禦スル爲メ一地方ニ群集スベク餘義ナクセラレ氣候及土質共ニ良好ナラズシテ植民ノ發展上妨害ヲ及ボス少々ナリトセズ之ニ反シテチユニスニテハ住民ハ溫良ニシテ氣候及ビ土質ハ歐人ノ來テ事業ヲ經營スルニ適當ナル所少ナカラザルヲ以テ此ノ地ノ植民ハ之ヲアルゼリヤニ比シ必ズ大ニ見ルニ足ルベキモノナカルベカラズ然ルニ實際ノ狀況ヲ見ルニ來テ土地ヲ開墾シ以テ農業ヲ經營シ此所ニ永住セントスル眞正ナル植民者ハ其ノ數極メテ少ナシ若シ單ニ多額ノ佛國資本ヲ此所ニ投入シ多大ノ土地ヲ獲得スルヲ以テ植民ト稱センカチユニスニ於ケル佛ノ植民ハ確カニ成效セリ既ニ今日マデニ投資セシ金額ハ二十億フランヲ超過シ八十萬町歩以上ノ土地ハ佛人ノ手ニ歸セリ然レドモ從來ノ行ハレタル大地主制ハ今尙依然トシテ存在シ唯其ノ所有者タリシ土人ヲ變ジテ佛人トナセシ

ニ過ギザルナリ彼等資本家が大地積ヲ獲得スルヤ先ヅ之ヲ小地積ニ分割シ以テ植民者ニ賣拂ハントセリ然レドモ一般ニ結果ノ見ルニ足ルベキモノ少ナク政府モ亦千八百九十一年以來直接自カラ植民事業ニ干與セリト雖更ニ發展ノ著シキモノナシ是レ果シテ如何ナル原因ニ基クゾ。

其ノ原因ハ種々アランモ彼ノアルゼリヤトチユニストガ本國ニ對スル法律的關係ノ如キ一見恰モ一大原因ナルガ如シト雖其ノ實然ラザルナリアルゼリヤハ征服地ナレバ佛蘭西ハ占領セシ土地ヲ自由ニ處分シ得タリシニ反シチユニスハ平和ノ間ニ占有セシモノナレバ其ノ間多少ノ情態ヲ異ニスルガ如シト雖然カモチユニスニ於テモ佛人ハ自己ノ欲スルガ儘ニ政策ヲ行ヒ得ルノミナラズ不人望ナル政策モ全然無勢力ナルベ一及ビ其ノ屬僚ノ手ヲ藉リテ之ヲ行ヒ得ルノ便宜アリ吾人ハアルゼリヤ及チユニスニ於ケル植民事業ノ發展ニ相違アルハ斯ル原因ニ基クニア

ラズシテ寧ろ其ノ主ナルモノハ佛國占領以前ニ行ハレシ土地制度ニアリト信ズアルゼリヤニ於ケル土地ハ主トシテ種族ノ共有地ナリシカバ佛人ハ土人ヲ追逐シテ得タル土地ヲ小分シ以テ此所ニ佛人ノ密居の村落ヲ形成セシカバ其ノ植民ハ稍民主的性質ヲ帶ブルニ反シチュニスニテハ既ニ述ベシ如ク土地ノ多クハ大地主ノ私有財産ニシテ佛國ノ領土トナリシ後モ唯所有主ノ手ヲ變更セシニ過ギザレバ植民地ノ性質ハ貴族的ナリ、

大凡歐洲植民ノ行ハル、地方ニ於テ最も重要ナル問題ハ植民者ノ權利ガ一方ニ於テハ在住ノ土人ヨリ他方ニテハ他ノ植民者ヨリシテ侵害セラル、ノ憂ナキコト是ナリ斯ル權利ハ狩獵ノ民或ハ遊牧ノ民ノ如ク未ダ土地財産權ノ何物ナルヤヲ知ラザル人種ノ棲息セル地方ニ在テハ比較的容易ニ制定セラル、ト雖チュニスノ如ク既ニ稍文化ノ程度進歩セル土人先住シ土地制度ノ複

雜ナル所ニテハ此ノ事極メテ困難ナリ何トナレバ從來行ハレシ土地制度ヲ全然等閑視スル能ハザレバナリ然ラバチュニスニ於ケル土地ノ所有權ハ如何ナル基礎ノ下ニ立テルヤ。

チュニスニ於ケル土地所有權ニシテ其ノ起源ヲ遠ク十八世紀ニ遡リ得ベキモノハ極メテ少ナク多クハベールノ贈與ニ基クカ或ハ無斷ニテ土地ヲ壟斷セシモノナリ佛國占領以前既ニ此ノ地ニテ一種ノ宗教的裁判所アリテ土地ニ關スル紛争ヲ裁決セリ今日尙土人間ノ争ハ此レニ訴ヘ以テ其ノ判決ヲ仰グ然レドモ其ノ判決タルヤ敢テ成文の法律ニ基クニアラズ唯關係者ノ任意ナリ到底歐人ノ服從シ得ベキモノニアラズ又土地ニ關シ争アリシトキハアラビヤ人ノ公證人二人ヲシテ公正證書ヲ作成セシメ得タリシモ敢テ之ニ依リテ權利ノ確實ナルコトヲ保證スルニ足ラズ何トナレバ公證人ハ證書記載ノ條項ノ眞否如何ニ就テハ何等ノ責任ヲ有セザレバナリ斯クノ如ク

殆ンド歐人ニハ耐ヘ難キ權利ノ不安全モ尙敢テ小農家ノ植民ニハ甚シキ妨害トナラザルニヤアルベリヤガ佛國占領後四十年間等シク不完全ナル權利ノ承認ノ下ニ立チシニモ拘ハラズ其ノ植民事業ハ着々トシテ發展セリ加フルニ佛國政府ハアルベリヤニ對スルト異ナリチユニスニハ既ニ千八百八十四年一ノ制度ヲ施行シ以テ土地ニ對スル權利ノ確實ヲ計レリ他ナシ有名ナルトールニス式土地制度法ノ制定是ナリ。

此ノ制度ハ千八百五十五年始メテ南濠洲ニ執行セラレシモノニシテ恰モ獨ノ土地臺帳制度ト相類似ス此ノ制度ノ發布ニ依リチユニスニ於ケル土地所有者ノ權利ハ確實トナリ賣買讓與抵當等容易ニ行ハル、ニ至リシカバ佛蘭西ノ資本來リテ大地主地ヲ獲得スルモノ頗ル多ク千九百年ニハ既ニ彼等ノ手ニ入りシモノ五十三萬千餘町步千九百〇四年ニハ更ニ増シテ六十三萬四千町步トナリ僅カ四箇年間に十萬町步ヲ増加セリ

當時歐人ノ所有地ハ七十一萬九千町步ナリキ而シテ現今佛人ノ所有ニ屬スルモノ無慮八十萬乃至八十三萬町步ニ上ルト又盛ンナリト謂フ可シ而テ此等資本家——多クハ土地會社——ガ土地ヲ獲得スルヤ定款ノ規定ニ依レバ更ニ之ヲ分割シテ植民者ニ讓與シ以テ其間利益ヲ收メントスルモノナリ然ルニ實際此地ニ移住シ佛人一家族ヲ養ハントセバ北部地方ニテハ七十町步南部地方ニテハ少ナクモ百五十町步ノ土地ヲ要シ之ニ加フルニ家屋動物農具等ノ諸費ヲ以テセバ少ナクトモ五萬フランノ資金ヲ投入セザル可ラズ是レ佛蘭西植民者ノ爲シ能ハザル事ナレバ若シ會社ニシテ彼等ヲ招徠セント欲セバ自カラ此等ノ資金ヲ前貸セザル可ラズ然ルニ會社ハ到底之ニ應ズルノ資力ナク又之ヲナスノ企業心ニ乏シカリシカバ定款ノ規定アルニモ拘ハラズ佛人ニ土地ヲ讓與スルコトヲナサズシテ占領前ニ行ハレシ土地制度ニ倣ヒ土地ヲ分割シテ主トシテ之ヲ

土人ニ貸與シ以テ貸地料ノ收入ヲ計レリ貸地料ノ額ハ最初ハ地價ノ五分乃至七分ニシテ漸次之ヲ上騰シ得ルノ手段ヲ取レリ而シテ土人以外間々歐人ニ土地ヲ貸與シ或ハ賣拂ヒシ場合ニハ其ノ對手ハ佛人ニアラズシテ伊太利人ナル事實ハ佛政府ノ非常ニ苦痛ヲ感ゼル所ニシテチユニス植民上講究ヲ要スル重要問題ノ一ナリ。

佛蘭西ノ立場ヨリ論ズレバチユニストアルゼリヤトハ唇齒輔車ノ情態ニアリト雖地理學上ヨリ云ヘバチユニスハ佛蘭西ヨリハ寧ロ伊太利ノ利益範圍ノ内ニ在リ伊太利ガ多年多クノ資本ヲ投入シ密接ナル利益の關係ヲ有シ他日自己ノ領土タルベシト考ヘ居タルチユニスはガ一朝佛國ノ手ニ歸セントルトキハ蓋シ斷腸ノ思アリシナラシ千八百七十年代ノ末葉チユニスノ沿岸ニテ佛人ノ住スルモノ僅カニ指ヲ屈スルニ過ギザリシニ反シ多數ノ伊太利人ハ業既ニ此所ニ移住シ來レリ若シ佛國ニシテ此ノ地ヲ占有セザランカ第

二ノ伊太利ヲ此處ニ建設センハ疑ナシ移住の植民地タルニ不適ナルトリポリヲ占領スルヨリ經濟上遙カニ有利ナルヤ明カナリ。

然シナガラ佛國ノ占有ハチユニスニ對スル伊太利移民ノ經濟的或ハ地理的事情ニ何等變更ヲ及ボサバリシナリチユニスは文化ノ程度及氣候ノ關係互ニ相類似シ人口多ク事業少ナク常ニ生計ニ困難ヲ感ズルモノ多キシリ及南部伊太利ト相接近シシリ島ノ南端ニ在ルトラバニヨリハ天晴ル、日帆船ヲ以テ僅カニ十時間以内ニテ此ノ地ニ達スルヲ得然カモ其ノ費ス所僅カニ三リラニ過ギザルヲ以テ北米合衆國或ハアーゼンチンニ渡航シ能ハザル貧困ナル伊太利人ノ來リ住スルモノ頗ル多ク實ニチユニスハ彼等ニ對シテ理想的ノ移住地ナリ彼等ハ氣候ノ關係上佛人ノ勞働ニ堪ヘ難キ南部地方ニ於テスラ尙且本國ニ於ケルガ如ク勞働ニ從事スルヲ得然カモ本國ニ於テ貧シキ生活ニ慣レシ彼等ノ要求ス

ル賃銀ハ比較的低廉ナリチユニスガ佛蘭西ノ保護ノ下ニ立チ種々ノ事業勃興スルヤ何レモ皆ナ好シデ賃銀ノ低廉ナル伊太利人ヲ使役スルヲ以テ一層盛シニ彼等ノ移住ヲ促シ人ヲシテ佛蘭西政府ハ恰モ伊太利人ノ移住ノ便ヲ計リチユニスニ於テ佛國統治ノ下ニ第二ノ伊太利ヲ建設スルガ爲メニ國費ヲ投入シツ、アルニアラズヤトノ疑問ヲ抱カシムルニ至レリ伊太利人モ都會ニ於テハ始メ小商ヲ營ムニ過ギザリシガ今ヤ漸次其ノ位地ヲ高メ醫師辯護士中商人等中級社會ヲモ建設スルニ至リ燃ルガ如キ愛國の精神ヲ以テ互ニ相團結シ本國ノ爲メニハ多大ノ經濟的犧牲ヲモ敢テ辭セザルガ如キ情態トナレリ人若シ一度此ノ地ニ遊バンカ電車ノ運轉手ノ如キモ唯伊語ヲ解スルノミニシテ恰モ伊太利ノ領土ヲ旅行スルガ如キ心地ス此ノ地ニ在ル伊太利人ハ北米合衆國或ハ南米ニ在ルモノト其ノ趣キヲ異ニシ地理的關係ヨリモ常ニ本國ト密接ナル連絡ヲ保チ

多大ノ後援ヲ受ク即伊太利ノ新聞紙アリ協會アリ病院アリ扶助金庫アリ學校アリチユニス駐在ノ伊太利領事ヲ中心トシテ隱然國家中ノ國家ヲ形成セリ佛國政府能ク此等ノ事情ヲ熟知スト雖今ヤ財政上ノ原因ヨリシテ伊太利人ノ移住ヲ防止スル能ハザルナリ何トナレバ今日此ノ保護國ガ經濟的利益ヲ舉ゲ得ルハ全ク伊太利人アレバナリ又此ノ地ニ於ケル大地主ノ感ズル利害ト佛國ノ國家の利害ト相衝突スルハ恰モ彼ノ波蘭土人ヲ使役スルポーゼン地方ニ於ケル獨逸ノ大地主ノ利益ト獨逸ノ國家の利益ト相背反スルガ如シチユニスニ於ケル佛蘭西ノ大地主ハ到底伊太利ノ勞働者ヲ解除スル能ハザレバナリ彼等伊太利人ハ能ク在來ノ土人タルベルベル人及トリボリスヨリノ入嫁勞働者ト相伍シテ能ク耕作ニ從事ス殊ニ葡萄ノ栽培ハ葡萄酒ヲ飲用セザル回々教徒ノ預リ知ラザル所ナレバ全然伊太利勞働者ノ手中ニ在リタリ。

前世紀ノ末八十年代佛蘭西本國ニ於テフヒロ
キセラ病ノ爲メ葡萄ノ栽培一大損害ヲ被リ他國
ヨリ葡萄酒ノ輸入ヲ仰ギシトキチユニスニ於テ
モ亦伊太利西班牙ト等シク葡萄ノ栽培盛シニ起
レリチユニスノ地葡萄酒ハアルゼリヤノソレノ
如ク頗ルアルコホル分ニ富ミ佛蘭西ノ地葡萄酒
ト南部葡萄酒トノ中間ニ位シ當時頗ル多大ノ收
益ヲ擧ゲ得タリシカバ其ノ收益ノ一部ヲ分配ス
ルノ約ヲ以テ盛ニ伊太利人ヲ使役セリ伊太利人
モ亦都會ノ近傍ニ於テ小地積ノ土地ヲ或ハ借リ
受ケ或ハ之ヲ買求メ以テ蔬菜ト共ニ葡萄ヲ栽培
セリ千九百〇四年チユニスニ住セル伊太利人ノ
數ハ十萬人ニシテ其ノ内土地所有者ハ十分ノ一
ニシテ其ノ所有地面積ハ七萬五千町步ニ過ギザ
リシカバ彼等ノ所有地ノ小ナリシヤ推知スルヲ
得而シテ伊太利移住者ノ多クハ到底自カラ土地
ヲ獲得スルノ資力アラザリシカバ伊太利ノ土地
會社ハ佛國ノ例ニ倣ヒチユニスニ於テ大地主ノ

土地ヲ買ヒ入レ更ニ之ヲ細分シテ以テ伊太利人
ニ分與セリ斯クシテ葡萄栽培ハ平和ノ間ニ此ノ
地ニ於テ伊太利人ノ勢力擴張ノ一原因トナレリ
然ルニ幸ニシテ其後佛國ニ於ケルフヒロキセ
ラ病撲滅セラレ葡萄ノ栽培恢復シ植民地ヨリシ
テ葡萄酒ノ輸入減少シチユニスニ於ケル葡萄栽
培業モ收支相償ハザルニ至ルヤ斯業ニ使役セシ
伊太利勞働者ノ必要ヲ減ジ隨テ其ノ移住減少セ
リ加フルニ昨年伊土戰爭起ルヤサナキダニ土人
間ニ人望少ナキ伊太利人ハ益土人トノ感情穩ナ
ラズ去テ本國ニ歸ルモノモ少ナカラザリキ而シ
テ又近年伊太利本國ニ於ケル經濟的狀況ハ稍恢
復シ來リ中世紀的情態ノ下ニアリシシシリ島
ニテモ勞働者ノ賃銀幾分カ上レリ是レ主トシテ
曩キニ北米合衆國等ニ移住セシモノ多少ノ資產
ト向上セル欲望トヲ以テ歸來セルモノ、感化ニ
依リ亞弗利加苦力トナリチユニスノ大地主地ニ
於テペルベル人及トリポリス人ト相伍シテ勞働

ニ從事スルヲ稍嫌フニ至リ千九百十年ノ政治家
年鑑ニハ尙八萬一千餘ノ伊太利人ト一萬餘人ノ
マルタ人トヲ掲載スト雖伊太利人ノチユニス移
住熱ハ今ヤ稍其勢ヲ減少セリ。

而シテ佛國政府モ近來感ズル所アリ土着セル
伊太利人ニ對シ強制的ニ佛蘭西教育ヲ授ケ以テ
之ヲ佛國化セント力ヲ盡セリ然レドモ是レ果シ
テ可能ナルヤ否ヤ一問題ナリ或ル論者ハアルゼ
リヤノ西部ヲラン地方ガ一度西班牙人ノ來住ノ
爲メニ殆ンド西化セントシタリシモ學校教育ニ
依リ能ク之ヲ佛化シ得タル事實ヲ引テ證明セン
ト欲スルモノアルモ是レ決シテ適例ニアラズア
ルゼリヤノ場合ニハ佛人ハ既ニ數ニ於テ西人ヲ
凌駕シ居タリシモチユニスニ於テハ八萬人ノ伊
人ニ對シ佛人ハ僅カニ三萬人ナリ然カモ其ノ内
田舎ニ住スルモノハ六千人ニ過ギズシテ田舎ノ
小學校ニテハ五六人ノ伊人ニ對シ佛人一人ノ割
合ナリ殊ニチユニスニ住スル佛人ノ多クハ政府

ノ官吏ニシテ更ニ此ノ地ニ永住スルノ意思ナク
成ル可ク早ク期限滿チテ母國ニ歸來センコトヲ
冀望スルモノナレバ彼等ガ果シテ能ク伊人ヲ佛
國化シ得ルヤ否ヤハ疑問ナリ。

上來陳述セシ所ニ依リ明カナル如ク若シチユ
ニスノ植民ヲシテ獨リ私人的經營ニノミ放任ス
ルトキハ彼等ハ主トシテ土人及伊太利人ノ勞働
ニ依頼スルヲ以テ到底此ノ保護國ヲシテ佛蘭西
化セシムルコト不可能ナレバ佛蘭西政府ハ斷然
自カラ此ノ事業ニ手ヲ着ケザル可カラザルノ決
心ヲナセリ然レドモ實際ニ之ニ對スル政策ヲ施
行セシハ遙カニ遅レ漸ク千八百九十年十一月三
日始メテチユニスニ於ケル農事ノ發展ヲ主宰ス
ル爲メ農務局 Direction d'agriculture ナルモノヲ
設ケ佛國ヨリノ植民者ニ適當ナル土地ヲ準備シ
以テ植民招徠ノ途ヲ講ゼリ然ルニ當時佛人ニシ
テ加奈多或ハ北米合衆國ニ移住スルトキハ先ヅ
一日二弗ノ賃銀ヲ得テ農場ノ勞働ニ從事シ能ク

地方ノ事情ニ通ズルヤ自カラ實地ニ農業ヲ經營シ得ルノ便アル上ニ其ノ生計ノ如キモ遙カニ郷里ニ於ケルヨリ豐ナルニ反シチユニスノ大地主

地ニ於テハ賃銀ハ多クモニフランニ過ギズ然カモ土人ト相伍シテ勞働セザル可カラザルガ如キハ到底佛人ノ耐ヘ得ル所ニアラズ是ニ於テカ佛國政府ハ先ヅチユニス市ノ近傍ニ於テ一大農場ヲ有スル農業植民學校 *Ecole coloniale d'agriculture* ヲ開設シ其卒業生ハ佛人ノ經營スル農場ニ

於テ相當ノ位地ヲ穫以テ地方ノ實情ニ通ジ得ルノ便ヲ計リ又農務局ハ千八百九十七年十二月發布ノ布令ニ基キ年々五十萬フランノ植民費ヲ以テ植民地ヲ選定シ衛生上ノ設備ヲナシ道路ヲ開鑿シ大地主地ヲ適當ノ大サニ區劃シ以テ佛國ヨリノ植民者ニ賣拂ヘリ賣拂方法ハ一時現金拂アリ或ハ十箇年間ノ年賦償還法ニ依ルアリ第二ノ場合ニハ代金ノ未濟中ハ購求地ヲ以テ其ノ抵當ニ充ツ而シテ植民者ハ農場内ニ家屋ヲ建設シ之

ニ住スルノ義務アリ最モ何等カノ事情アリテ自カラ任ズルコト能ハザルトキハ他ノ佛人ヲシテ之ニ代ハラシムルヲ得。

前陳ノ方法ニ依リ政府ハ先ヅ始メニ國有地ニ佛人ヲ移植シタリシガ忽ニシテ之ヲ處分シ盡セシヲ以テ更ニ進ンデ之ヲ寺院地ニ及ボシ佛人ヲシテ永小作タラシメタリ千八百八十九年一月三十一日ノ布令ニ依レバ寺院地ノ賃附ハ入札ニ依リ最高入札者ヲシテ小作セシムル規定ナルモ其ノ最高額ハ入札原額ノ五割ヲ超過スルヲ得ザルヲ以テ小作料ハ普通賣買價格ノ五六分ニ過ギズ又近時ニ至リ寺院地ハ賣拂金ヲ以テ他ニ同種數ノ事業ニ投入スルカ或ハ他ノ地方ニ於テ寺院地ヲ設置スルニ使用スルトキハ之ヲ賣拂ヒ得ルニ至リシテ以テ蘭佛西人モ亦此ノ種ノ土地ヲ購買シ得ルノ便開ケタリ。

斯クノ如ク政府ハ種々ノ方策ヲ廻ラシテ佛國植民ノ發展ヲ計リシト雖兎角事業ハ遅々トシテ

進行セズ今ヤ殆ンド杜絶ノ姿ニ陷レリ是レ一ニハ植民スベキ土地ノ既ニ缺乏セルト二ニハ適當ナル植民者ヲ招徠シ能ハザルニ依ルナリチュニスハ隣邦アルゼリヤニ比スレバ土地ノ私有財産制度遙カニ發展セルヲ以テ遊牧ノ民ヲ放逐シテ以テ利用シ得ベキ土地ハ極メテ少ナク地味ノ豐饒ナルモノハ多クハ土人ノ所有ニ歸シ然カモ土地ハ或ル一人ニ屬スルモ其ノ上ニ生ゼル果樹ハ他ノ人ニ屬スト云フガ如ク財産權ハ極メテ細分セラレ加フルニチュニスニ來レル佛人ハ皆彼等ノ資力ニ不相當ナル大地積ヲ獲得シ以テ之ヲ經營セントスルガ故ニ益土地ノ缺乏ヲシテ甚シカラシム。

土地ノ缺乏ト共ニ佛國植民者モ亦大ニ不足ヲ感ゼリ是レ他ナシ彼等ハ本國ニ於テ人口ノ増殖遲々ナルヲ以テ海外植民ノ必要ヲ感ズルコト少ナク若シ海外ニ出デント欲セバ寧ロ歐洲ト同一ノ文明程度ニ進メル北米合衆國ノ如キ地方ニ移

ラントスルヲ以テ北弗ノ如キ半開ノ地ニ彼等ヲ招徠セント欲セバ政府ハ多クノ經費ヲ之ニ投ジ全力ヲ盡シテ之ガ誘導ニ勉メザル可カラザルニチュニス政府ハ極メテ因循姑息ノ手段ヲ取りチユニスニ於ケル土地ノ分割賣買ノ如キモ恐クハ農民ノ手ニスルコトナキ一ノ官報ニ掲載スルヲ以テ事足レリトナスガ如キ爭デカ愛郷心強キ佛人ヲ刺戟シテ海外ニ着目セシムルヲ得ンヤチュニス政府ガ斯クノ如ク植民招徠ニ熱心ナラザル所以ハ多數ノ中小農家ノ來住スルハ是レ即チ民主主義隆盛ヲ意味シ貴族の性質ヲ帶ビ專制ヲ旨トスル植民地政府ト相容レザルガ爲メナリトノ疑ヲ抱クモノアルモ蓋シ否認シ難カラン既ニ昨年未ノ佛國下院ニ於テ社會黨員ヴアイラン Vailant が「植民政策ハ組織立テル盜賊ナリ」La politique coloniale, C'est le vol organisé ト極言セルガ如キ又近年チュニス政府ガ嘗テアルゼリヤニ行ハレシ例ニ倣ヒ土地ノ收用政策ヲ採用スルヤ

昨年十一月二十四日代議院ニ於テ議員ラグロジ
エール Lagrosillier ハチユニス政府ハ如何ニ其ノ
非ヲ蔽ハントスルモ此ノ政策ハ明カニ土人ノ土
地ヲ掠奪シ之ヲ放逐セントスルモノナリ然カモ
斯クシテ得タル土地ハ敢テ佛ノ中小農家及勞働
者ニ與フルニアラズシテ寧ロ政治家實業家操觚
者官吏議員等ノ如キ亞流ニ大地積ヲ交付シ彼等
ヲシテ一旦放逐セシ土人ヲ使役シテ之ヲ耕作セ
シメ以テ一大財産ヲ造ラシム斯クノ如クシテ佛
蘭西ノ保護國ハ果シテ能ク健全ナル發展ヲ爲シ
得ルヤト盛シニ政府ヲ攻撃セルガ如キ亦以テ此
ノ間ノ消息ヲ窺フニ足ルベシ。

政府ハ此ノ種ノ目的ヲ達スルガ爲メ曩キニト
ーレンス式ノ登記法ニ依リ歐人ノ土地所有權ノ
安全ヲ計ルガ爲メ設ケタル合議裁判所ノ權限ヲ
擴張セリ始メ佛人ハ土人ニ對シ司法權ノ獨立ヲ
表示スル爲メ佛人ノ裁判官ト相竝ンデ事實上裁
判所ノ判決ニ勢力ヲ有セル佛政府ノ手ニ成ルモ

表面上ハペーノ名ニ依リテアラビヤ人ヲモ共ニ
裁判官ニ採用シ又第一審ノ判決ニ服セザルモノ
ハ更ニ之ヲアルゼリヤノ控訴院ニ上告シ得ルノ
途ヲ開ケリ然ルニ之ガ爲メ始審ノ破棄セラル、
コト屢々ナリシカバチユニス政府ハ到底永ク之
ヲ耐フル能ハズ遂ニ千九百二年第一審ヲ以テ終
審トシ自己ノ權力ノ及ブ範圍内ニ於テ判決ヲ確
定シ以テ土人ヲ壓伏スルノ策ヲ講ゼリ加フルニ
處分スベキ國有地減少スルヤ遂ニ千九百一年ニ
ハ遊牧ノ民ノ土地所有權ヲ認識セズ悉ク收メテ
之ヲ國有地ニ編入セリ是レ恰モ普魯西内國植民
ニ於テ地價騰貴ノ爲メ遂ニ土地收用法ヲ適用セ
シト其ヲ撥ヲ等ウス今ヲ去ルコト五十年前嘗テ
アルゼリヤガ遭遇セシ歴史ヲ今ヤチユニスハ繰
返シツ、アリ而シテチユニスニ於ケル佛人ノ狡
猾ナル斯ル政策ヲ行フモ總テ皆ペーノ名ヲ以テ
シ自己ノ非ヲ蔽ヘリ是ニ於テカ土人ハ全然其ノ
所有地ヨリ逐放セラル、カ或ハ新所有者タル佛

人ニ地代ヲ納メテ從來彼等ガ所有シ來リタル土地ヲ使用スルカ二者其ノ一ヲ選バザル可ラズ斯クノ如クシテ此ノ新領土ニ於テ恰モ一種ノ封建的政策行ハル而シテ嘗テアルゼリヤニ行ハレシ如クチユニスニ於テモ屢遊牧ノ民ニ必要缺ク可カラザル水源地ヲ含メル土地ヲ佛人ニ交附セシカバ如何ニ殘餘ノ土地ハ廣大ナリト雖彼等土人ニ取リテハ一文ノ價值ナク牧羊ノ業ヲ營ム能ハズ土人ハ唯其ノ數ヲ減ズルノミ。

斯ル政策ハ近時佛國ノ占有セシモロツコニ於テモ亦將ニ行ハレントス既ニ昨年十一月九日ノ議會ニ於テジョレー Jaurès ハアルゼリヤ及モロツコノ國境ニ在ルウシユダニ於テ占領後間モナク佛蘭西ノ官吏ガ自己及友人ノ爲メニ土人所在地ヲ交附シ名譽アルツロー將軍之ニ對シ斷乎タル處置ヲナスヤ却テ本國政府ニ召還セラレタリト述ベテ一大喝采ヲ博セリ其ノ後ノ議場ニ於テモタンデル地方ニ於ケル佛人ノ土人地掠奪

事件ニ關スルロンドンタイムスノ記事ハ討議セラレタリ。

土地處分ノ如ク礦物處分ニ於テモ亦然リ特ニ將來チユニスノ經濟的發展ニ密接ナル關係ヲ有スル燐礦ノ處分ニ關シ然リトスガフサ燐礦ノ採掘權ヲ或ル特許會社ニ許可セル如キ佛蘭西植民政策ノ最モ暗黒ナル頁ノ一ニシテ遂ニ昨年十一月議會ノ一問題トナレリ千八百九十六年會社ガ地下ニ燐礦ノ存在セルコトノ明カニ知レ居リシ土地五萬町步ヲ交附セラレシトキ之ヲ所有セシ土人ハ斯ル貴重ナル富ノアラントハ夢ニダモ之ヲ知ルニ由ナク何等ノ賠償ヲモ受ケザリキ會社ハガフサノ周圍二百萬町步以內ニ於テ發見セル燐礦ハ皆獨リ之ヲ採掘シ得ルノ權ヲ得若シ又此廣漠ナル面積以外ニ於テ同種類ノ會社設立セラレ、ヤ政府ハ其ノ生産物ヲ搬出スベキ通路ヲ規定シ得ベキ權ヲ有セリ是レ他ナシ運搬道路ヲ迂迴セシメテ既設會社ト競爭ヲ爲シ得ザラシムル

カ或ハ既設會社ノ建設セシガフサ及ビスファツクス間ノ鐵路ヲ強制的ニ使用セシメント欲スルモノナリ此ノ會社ノ獨占權ニ對シ國家ハ最初ノ探堀量十五萬噸ハ一噸ニ付キ一フラン次ギノ十五萬噸ハ六十五サンチーム次ギノ七十萬噸ハ三十サンチームノ租稅ヲ上納セシム此ノ納稅法ニ依レバ會社ハ成ル可ク多クノ探堀ヲナスヲ以テ利益アリトシ現今ハ百斤ニ付キ探堀料四十四サンチームヲ拂ヘリ之ヲ他ノ二箇ノ競爭會社ガ一ハ一フラン七十七サンチーム他ハ一フラン六十ニサンチームヲ拂ヒアルゼリヤノ同種會社ガ二フラン十サンチームヲ納ムルト相對照セバ如何ニ前記會社ガ莫大ナル利益ヲ壟斷シツ、アルヤヲ窺フニ足ル國家ハ又此ノ會社事業ノ買上權ヲ有スト雖其價額ハ最近七箇年ノ平均價格ヲ基トシ且ツ如何ナル場合ト雖前年度ノ收益ヲ下ルコトナカラシムル規定ナレバ會社ハ斯ル場合ニハ出來得丈ケ多額ノ探堀ヲナシ以テ收益ノ大ナラ

シコトヲ勉ムルヤ必セリ而シテ始メハ會社ノ營業年限ヲ二十箇年ト定メシガ千九百〇四年ニハ更ニ十四箇年ヲ延長シ千九百〇九年ニハ遂ニ之ヲ千九百六十六年マデトシ併セテガフサ及スファツクス間ノ鐵道買上權ヲ放棄セリ是ニ由テ之ヲ觀レバ始メ契約セシ買上權ノ如キモ會社事業ノ不利ナル場合ニ處スル爲メ豫メ定メタルモノニ外ナラズ此ノ會社モ亦財政上ノ理由ヨリシテ鐵道及探掘事業ニハ唯伊太利人ノミヲ使役スルヲ以テチユニスヲ以テ伊太利化セントスル一機關トナレリ是レ特殊階級ノ佛人ニ大地積ノ土地ヲ交附スル政策ト相俟ツテ共ニ事實上佛人移植ノ破壞者ナリト稱スベシ昨年チユニスノ田舎ニ植民セシ佛蘭西ノ家族ハ僅カニ五十戸ニ過ギザリシハ宜ナリト謂ツ可シ。

吾人ハ素ヨリチユニスガ全然歐洲式ニ則リテ統治シ難キ理由ヲ知ルト雖若シ佛蘭西ニシテ少ナクモ東洋の專制主義ニ代フルニ十八世紀ニ行

ハレシ專制政治ヲ以テシ從來諸國ガ陷リシ行政上ノ失敗ヲ自カラ再ビセザリシナラバ拓殖ノ效果ハ蓋シ顯著ナルモノアリシナラン然ルニ事茲ニ出デズ依然トシア此等ノ失敗ヲ繰返セシハ實ニ遺憾ナリ殊ニ吾人ハ財政上ニ於テ之ヲ認ム佛人ハチユニス占有當時行ハレシ徵稅法ノ多クヲ踏襲セリ是レ人頭稅ト收益稅ニシテ共ニ生産ノ發展ヲ妨ゲリ此ノ地ノ住民ハ年齡十五歲ニ達スルヤ直ニ人頭稅ヲ課セラル始メハ其ノ額二十八フランナリシガ佛人ハ之ヲ二十四フランニ低減セリ人頭稅ノ外北部地方ニテハ現金或ハ現物ヲ以テ農業的總收益ノ十分ノ一ヲ納ム是レ始メハ純然タル宗教上ノ捧物ナリシガ千八百六十九年ペーノ布告ニ依リテ一種ノ地租ノ如キモノト變ゼリ穀類ハ之ヲ先ヅ倉庫ニ納メテ後チ競賣ニ附スルカ或ハ翌年マデ之ヲ貯藏シ後チ之ヲ賣拂フカ恰モ中世紀頃西班牙ニ行ハレシ稅制ト相等シ橄欖樹ヲ栽培スル東部地方ニテハ各樹ノ年齡及

收穫量ニ應ジテ稅額ヲ定メ蔬菜園モ亦特殊ノ租稅ヲ納ム租稅ハ斯クノ如ク獨リ生産物ニ課スルノミナラズ又市場ニ於ケル取引ニモ課シ賣買價格ノ十分ノ一ヲ徵收ス此等租制ハ佛國ノ保護時代トナリテモ依然トシテ行ハレ獨リ輸出品就中食料品ニ課セシ高價ナル輸出稅ノミハ佛蘭西商業ノ利益ノ爲メ全然之ヲ廢止セリ廢止セザリシハ從來行ハレシ徵稅ノ方法ナリ佛蘭西政府ハ徵稅上一部ノ土人ト利害ヲ共ニセント企テ巧ナル計劃ヲ立テ直接自カラ徵稅ノ任ニ當ラズ專ラ之ヲ土人ノ手ニ委テ政府ハ唯之ヲ監督スルノミ此ノ方法ニ依ルトキハ土人中有力ナルモノハ收稅人ト相結托シ自己ノ納稅額ノ全部或ハ其ノ一部ヲ納ムルコトナク其ノ不足額ハ之ヲ貧困ナル土人ニ負擔セシムルヲ以テ彼等ハ之レガ爲メニ同一ノ租稅ヲ再三再四徵收セラル然カモ當時ハ徵稅ニ對シ何等ノ領收書ヲ出サバリシ習慣ナリシカバ斯クノ如キ不當ナル方法モ能ク之ヲ行フヲ

得タリ加之徵稅人ハ政府ヨリ一定ノ報酬ヲ受クルニアラズ徵稅ト共ニ自カラ之ヲ納稅者ニ賦課スルモノナレバ其ノ弊一層甚シ佛政府ハ能ク其ノ弊害ヲ熟知スルモ尙且之ヲ知ラザル爲シ兵力ヲ嚴ニシ以テ不時ノ暴動ニ備フルヲ以テ土人ハ如何トモ爲ス能ハス殊ニ近年公債ノ發行頻繁ニシテ之ヲ償還シ之ガ利子ヲ支拂フ爲メ土人ノ負擔ハ一層過重トナレリ世人或ハ此等ノ公債ハチユニスノ港灣鐵道道路工事等ノ爲メニ使用セラレ交通ノ便開ケ土地ノ價值上騰スト論ズルモノアルモ募集セシ公債ノ内或ハ新聞紙ノ買收ノ爲メ或ハ大銀行利用ノ爲メ幾何ヲ消費セシヤ吾人ハ茲ニ其ノ額ヲ明證シ能ハザルヲ憾ミトス

上來陳述セシ所ニ依リ吾人ハ近キ將來ニ於ケルチユニスノ政治的及經濟的運命ニ就キ確乎タル豫言ヲナス能ハザルナリ今日マデ種々ノ弊風行ハレシト雖概言セバ此ノ保護國ガ經濟的發展ヲナシ殊ニ都市ニ住スル土民ハ其ノ恩澤ニ浴セ

シヤ爭フ可カラザル事實ナリ地價ノ騰貴ノ如キ明ニ之ヲ證明ス而モ其ノ騰貴ヨリ生ズル利益ハ土人ヨリ寧ロ政治上優越セル權利ヲ有スル佛人ノ多ク占有センヤ言ヲ俟タザルナリチユニスガ將來果シテ佛國ノ國民的植民地トナリ得ルヤハ一ノ疑問ナリ佛蘭西本國ヨリ植民者ヲ招徠シ得ルヤ否ナヤハ農務局ノ失敗ノ歴史ノ示ス如ク最早問題タラザルナリ然レドモ佛國民ヲ此處ニ植民スルノ必要ハ昨秋起リシ土人ノ不穩タル必ズシモ獨ノ伊太利人ニ對セルモノニアラザリシヲ知レル佛人ノ最モ適切ニ能ク之ヲ感ゼル所ナリ單ニ經濟上ノ見地ヨリ論ズレバチユニスノ殖民ハ佛國ニ對シ決シテ不利益ナラザルナリ此ノ保護國ハ財政上既ニ獨立シ佛國ハ少額ノ投資ヲナシテ能ク鐵道及郵便ノ如キ大事業ヲ成效セリ此ノ點ニ於テハ彼ノ半バ人爲のニ半バ軍事的ニ多額ノ國費ヲ投ジテ何等ノ利廻リニ當ラザルアルゼリヤノ植民ノ如キハ到底比較ニ値セザルナリ

然レドモ國家或ハ國民ガ其ノ勢力ノ發展ヲ計ラントスルハ商人ノ如ク單ニ鎔銖ノ利ヲ以テ論ズベカラズ最モ低廉ナル植民事業モ其ノ基礎ニシテ不確實ナランカ遂ニハ最モ高價ナルモノトナル既ニ佛國ニ於テモ政治的及軍事的の見地ヨリシテ國費ヲ投ジテ以テ佛人ヲ此ノ地ニ植民スルノ必要ヲ論ゼリ然レドモ時代ハ一變セリ佛國ガ嘗テアルゼリヤニ植民セシ頃能ク自國ノ小農或ハ農業勞働者ヲ移植シ得又千八百七十年以降ハエルサス人ヲ此處ニ移シ得タリト雖本年二月三日佛國議會ニ於テチュニスニ對シ此レト殆ンド同様ナル議案提出セラル、ヤ農民黨ハサナキダニ人口ノ缺乏セル田舎ニ於テ之レガ爲メ益々人口ノ缺乏ヲ感ズルニ至ラント杞憂ヲ抱ケリ是レ決シテ一片ノ杞憂ニアラズ本國ヲ去テ植民地ニ移住セントスルモノハ年々都會ニ集來スル浮浪ノ徒輩ニアラズシテ農業上最モ必要ナル中小農階級ナレバナリ佛國ハ今ヤ國土膨脹上一大危機ニ

際會セリ政治上ノ大望ヲ満足セシメントスルモ人口ノ増殖率ニ伴ハザルヲ如何ニセン佛國ハ將來益國土ヲ占領スルヲ得ンモ此レニ自國民ヲ移植スル能ハザルナリ然レドモ比較的歐人ノ土着ニ適スルチュニスニ於テハ他國民トノ競争上最モ必要ナル條件ナレバ佛國ハ早晚本國以外ヨリシテ佛國民ヲ此ノ地ニ移植セシメ得ルノ時機ニ際會セン、サハ他ナシ隣邦アルゼリヤ人ノ移住是ナリアルゼリヤニ於ケル佛人ノ自然的増殖ハ頗ル盛ニシテ業既ニチュニスノ西隣ヲ超ヘテ此ノ地ニ移リ來ルモノアリ彼等ハ亞弗利加ノ風土ニ慣レシ善良ナル農夫ナリアルゼリヤハ豐饒ナル良土ニ乏シキモチュニスハ之ニ富メルヲ以テ漸次アルゼリヤヨリノ移民増殖シ能ク此ノ地ニ於ケル伊太利人ヲ同化シ種々ノ人種ノ集合セルチュニスニ於テ遂ニ新シキ一ノ國民ヲ發生スルヲ得ルニ至ルナラン歟而シテ佛蘭西本國ガ果シテ能ク此ノ國民ヲ永久ニ統治シ得ルヤ否ナヤハ

他ノ問題ナリ。

第十四卷

(九三)

雜錄

限界收益均等ノ原理

第一號

九三